

3 ヒアリング調査結果の概要

3-1 ヒアリング調査回答者の基本属性等

ヒアリング調査に協力を得た回答者の基本属性等は、個人情報に関する箇所にマスキングを行っている。(以下同じ。)

表 3-1 基本属性

	市町	自治会名	年齢	性別	就労状況	主な収入	住居形態	世帯人数	
1	霧島市	菩提寺団地							
2									
3									
4									
5		朝日町							
6									
7	伊佐市	宮人							
8									
9									
10	始良市	永瀬							
11									
12		明神							
13									
14	湧水町								
15									
16									二渡
17									
18		麓							

3-2 分析の方針

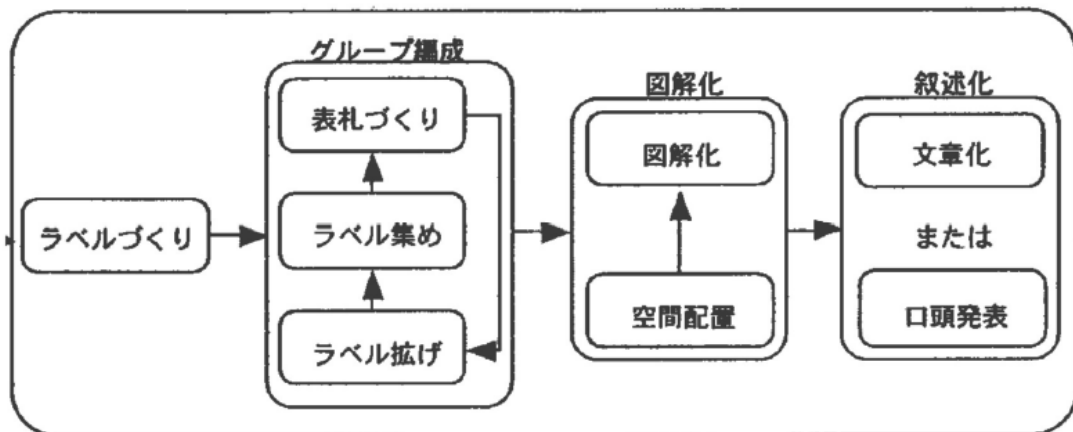
3-2-1 分析手法と解析ソフト

本調査では、各自治会加入者に対して行ったヒアリングにより得られたテキスト型データ（質的データ）を分析するため、古典的な分類手法である「KJ法」を用いた。

KJ法は、文化人類学者の川喜田二郎氏が考案した手法であり、名刺程度の紙片に記されたデータのグループ分け、図解化を通して質的データを整理していく手法として、心理学や看護学、言語学の分野で広く利用されている。質的データが膨大であっても、図解化によって情報をコンパクト化でき、簡潔かつビジュアルな形に圧縮できる利点がある。

本分析では、地域福祉論が専門で、鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科の高橋信行教授から推薦を受け、KJ法を取り入れた解析ソフトである「改善ブレイン」（インプルーブ有限責任事業組合開発・販売）を用いて、整理を試みた。

表 3-2 1986 年版以降の KJ 法の手順⁶



⁶ 清水凌平, 村上忠幸 (2022) 『教育実践分析への質的研究手法導入の検討—KJ法を活用した質的研究—』

3-2-2 分析手順

調査受託者において行った分析の手順は次のとおり。

1. ヒアリング調査結果を各自治会ごとに文字テキストに取りまとめ。
2. テキスト化された文字データを、回答文単体で意味が通るよう、質問文を加味して（）等で補足，加筆・修正した。
3. 複数の要素が入っている長文はそれぞれ意味が通る条件下で，分割して短文化し，以降は，1個文として取り扱った（ラベルづくり）。
4. 次に示す大項目ごとに各文を整理した。
5. 各大項目ごと，「改善ブレイン」を使って，整理した（ラベル拡げ，ラベル集め）。
6. 改善ブレイン内でラベル化された要素を，親和性の高いもの同士をグループ化（グループ編成）し，それぞれに共通する「見出し」を設定（表札づくり）し，適宜階層化して図解化した。
7. 図解したグループやラベルのうち，関係があると推測されるものについては矢印と説明文を用いて整理した。

<大項目>

1. 個人属性
2. 買物や移動など日常生活での困りごと
3. 外出と外出の手段
4. 情報入手と通信手段，困りごと相談
5. 暮らしの将来

※ただし，ヒアリング量が少なかった湧水町・麓自治会についてはこの限りではない。

3-3 調査結果の整理

分析ツール「改善ブレイン」を用いて整理して図式化した、各自治会のヒアリング調査の結果は次のとおり。

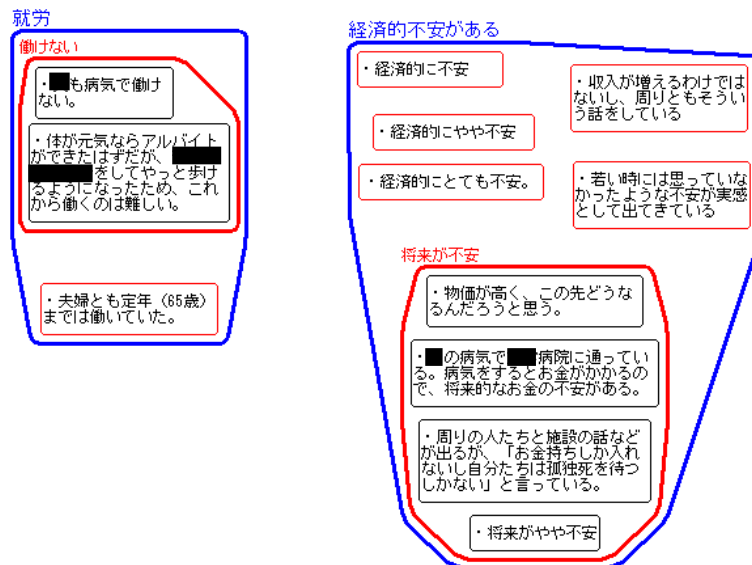
3-3-1 霧島市

3-3-1-1 菩提寺団地自治会

(1) 個人属性

図.表 3-3-1-1-(1) 個人属性

	市町	自治会名	年齢	性別	就労状況	主な収入	住居形態	世帯人数
1	霧島市	菩提寺団地						
2								
3								
4								



(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

食料品の調達は、一部の住民が徒歩で行うことができるものの、高齢者や障害のある人にとっては困難な状況も想定される。特に重たいものや大きなものを購入する際には、周囲の助けが必要な場合がある。移動販売を希望する声もある。

交通手段の確保も課題であり、運転免許の返納後の移動に悩む人が多く、バスは利用方法が分かりにくいという意見がある。

移動支援サービスや、気軽に利用できる福祉サービスを求める声が見られる。

(3) 外出と外出の手段

運転免許の返納には、移動手段の確保が大きなネックになっている。タクシーを利用する選択肢があるが、予約の難しさや料金の高さが利用を妨げている。通院などの際の移動手段としてのタクシー支援を求める声がある。

一方で、自家用車を運転できる間はなるべく利用したいという意見もあり、運転免許の返納のきっかけや時期について悩む人も多い。

また、巡回バスを含めた公共交通機関の利便性向上や、タクシー料金の補助を求める声がある。

(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

行政の広報紙を見る住民がいる一方で、文字が小さくて読みづらいという声もある。

インターネットを使うことに対する抵抗感があるという意見もあり、スマートフォンを持っていても、主にLINEや通話のみに限定して使用する傾向がある。

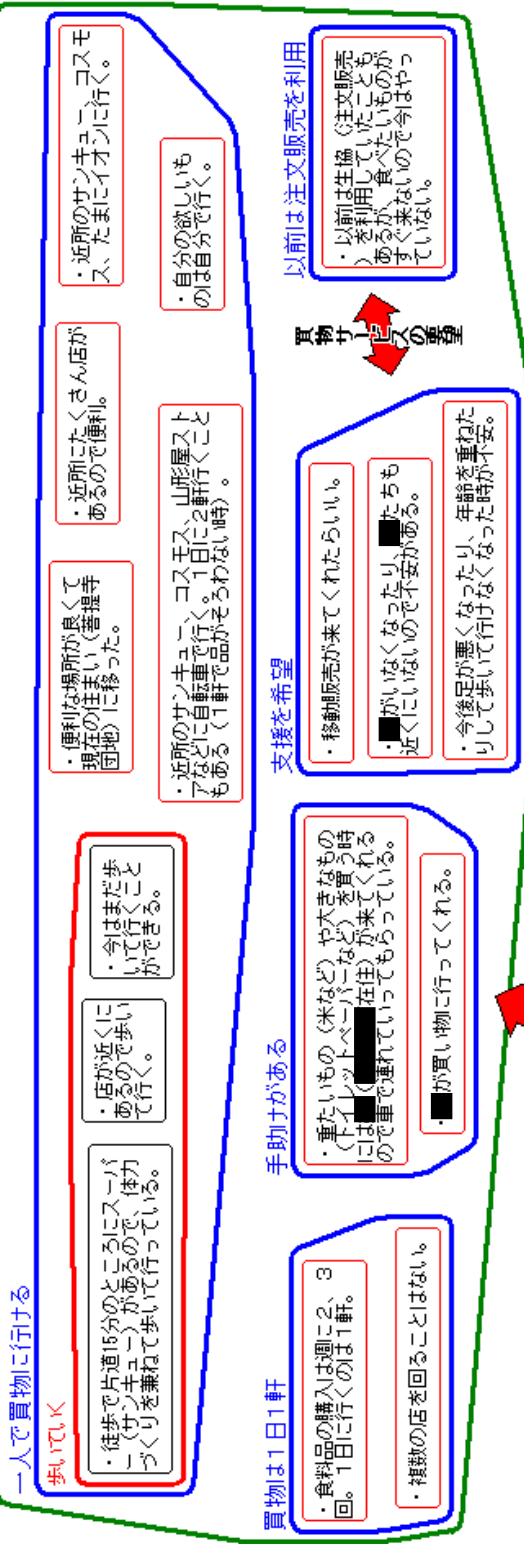
また、生活上での困りごとを相談する際の選択肢が限られており、行政への信頼感にばらつきもある。

(5) 暮らしの将来

移動手段が限られていくかもしれない中で、買物を支援する仕組みが求められている。移動販売や注文販売を利用することが高齢者の楽しみにつながるとの意見もある。

また、他の人と交流できる機会を求める声がある。楽しみでもある買物と地域の集まりを組み合わせた仕組みの構築に期待の意見がある。

食料品の調達



他者からの支援

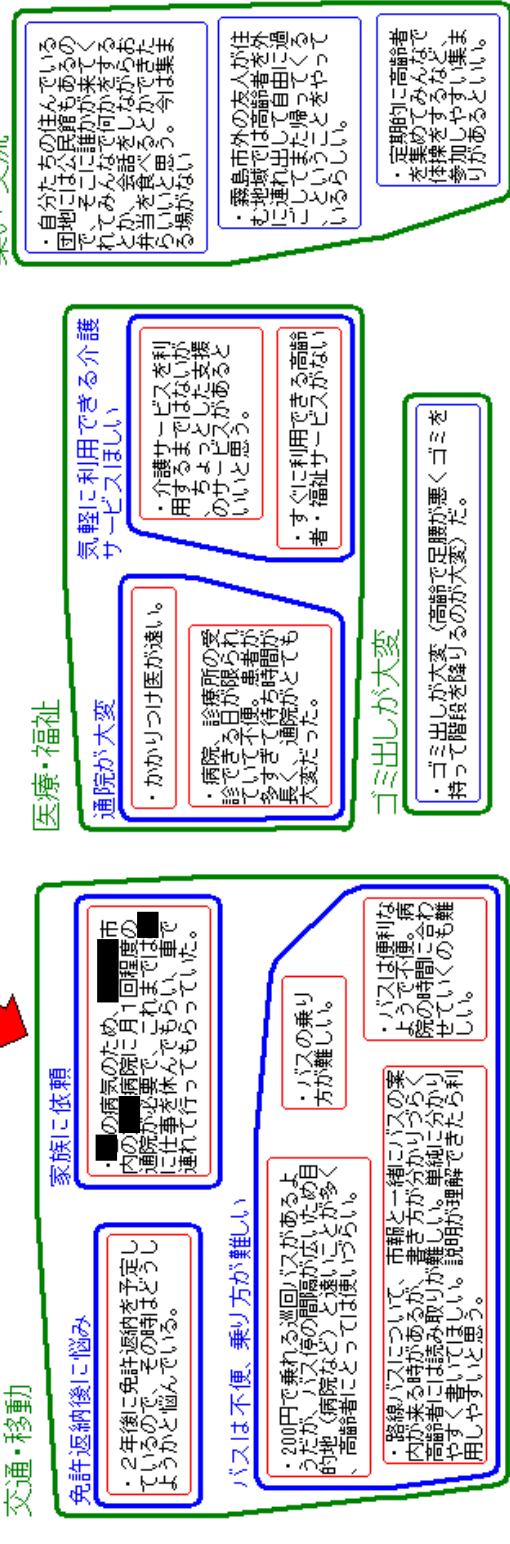


図 3-3-1-1-(3) 外出と外出の手段

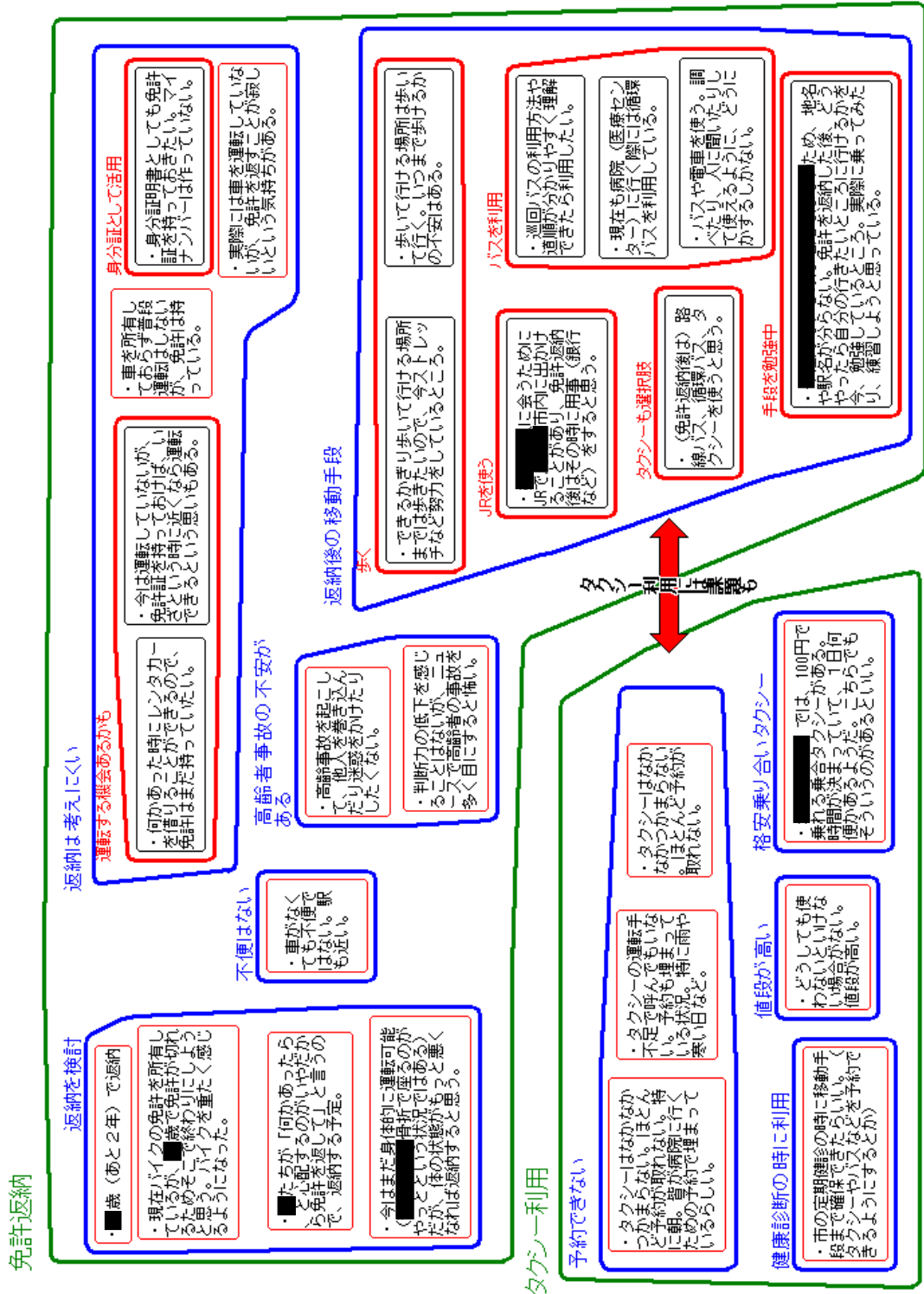


図 3-3-1-1-(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

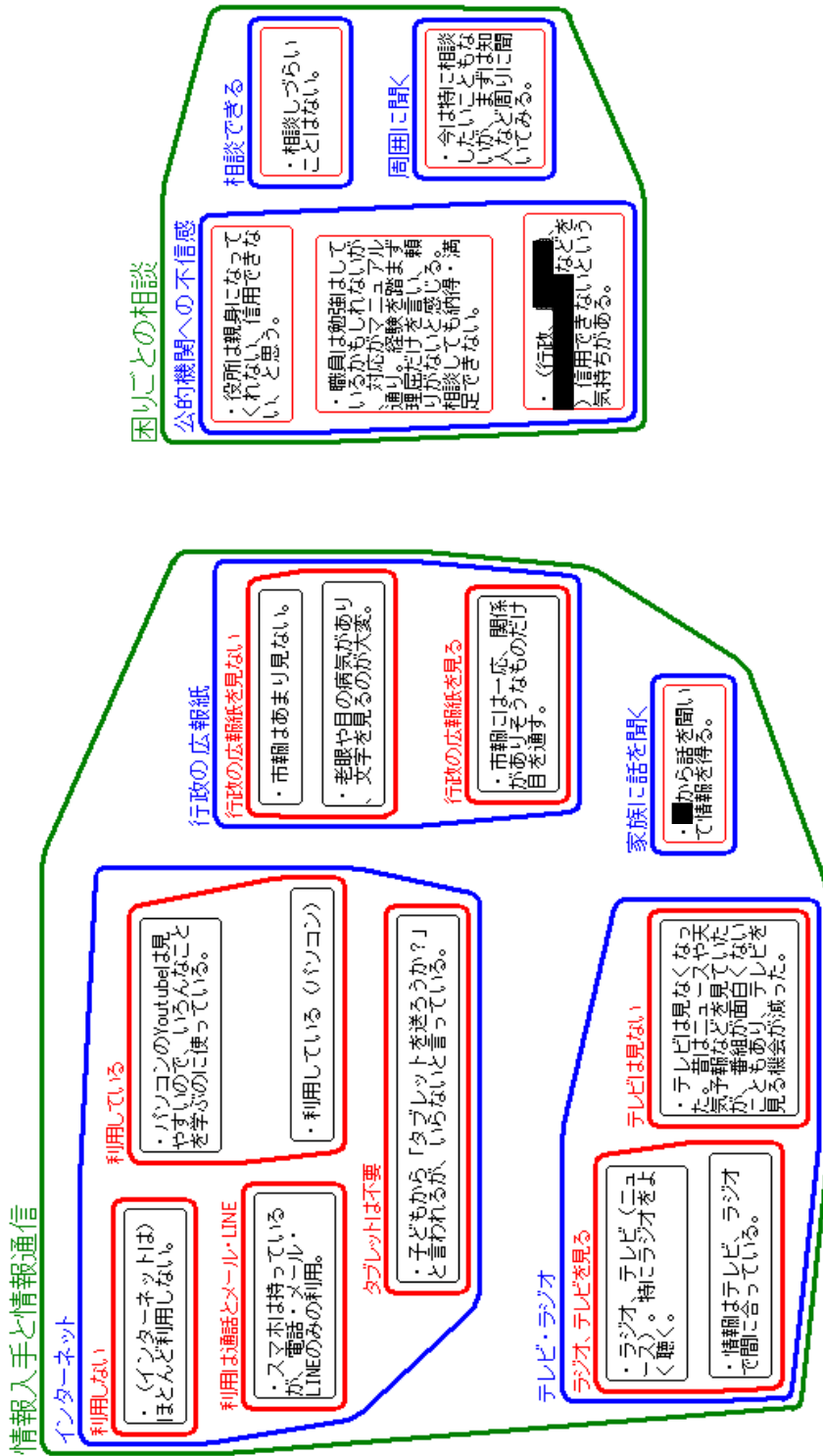
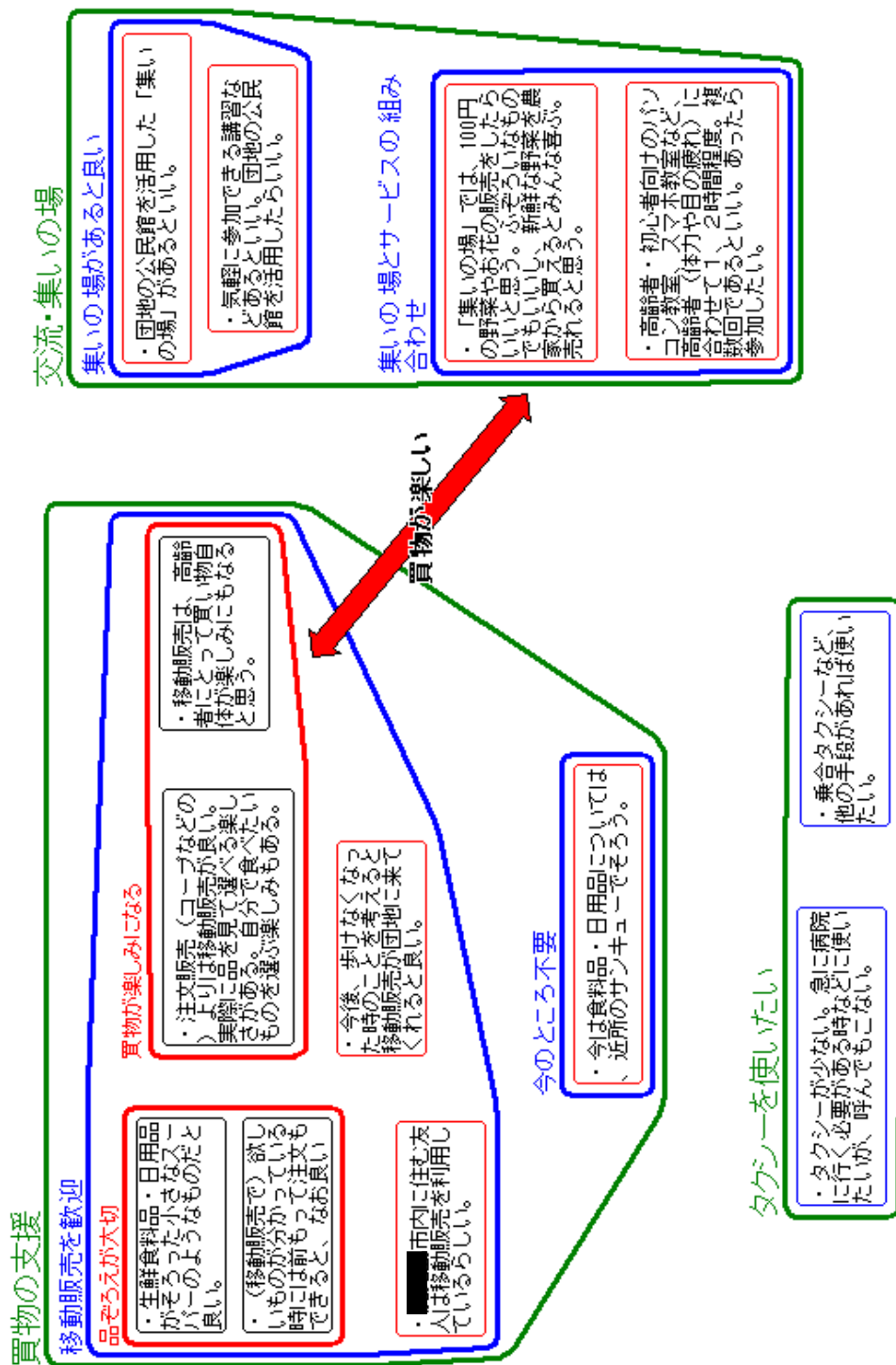


図 3-3-1-1-(5) 暮らしの将来



3-3-2 伊佐市

3-3-2-1 朝日町自治会

(1) 個人属性

図.表 3-3-2-1-(1) 個人属性

	市町	自治会名	年齢	性別	就労状況	主な収入	住居形態	世帯人数
1	伊佐市	朝日町	[Redacted]					
2								

住居と世帯の状況

世帯

- ・ [Redacted] と2人暮らし
- ・ [Redacted] 同居 ([Redacted])

就労と収入の状況

収入

- ・ [Redacted] が [Redacted] の仕事を受けて、月に [Redacted] 日程度仕事をしているのと、 [Redacted] がある

(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

近くの店舗が減少し、品揃えが悪くなったことで、買物の利便性が低下している。家族の支援があれば食料品を調達できるが、遠出しないと十分な買物ができない状況もある。大型店舗であっても広すぎて活用しづらいという面もある。

セルフガソリンスタンドの使い方が分かりづらいとの声もある。

(3) 外出と外出の手段

高齢者にとって運転免許の返納は大きな課題であり、可能な限り更新を続けたいと考える人が多い。しかし、夜間の運転や遠出には不安があり、運転免許の返納後の移動手段が確保できるかが懸念されている。

自転車で移動できる範囲なら問題ないが、長距離移動は家族の送迎に頼るしかないとの声もある。

タクシーを買物にも利用したいが、料金負担が重いため、タクシー券の拡充を望む声が多い。

(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

行政の広報紙を読んでいる人が多い。

インターネットの利用について高齢者の多くは「怖い」と考えている。

民生委員の訪問は歓迎されており、地域交流サロンでの情報共有など、相談できる環境の整備が必要とされている。

特に、日常の困りごとを話し合える場所の確保が求められている。

(5) 暮らしの将来

家族の手助けがなければ、買物や病院通いが難しくなる。自宅配送サービスがあれば利用したいが、現在は十分な選択肢がない。

車を利用できなくなることへの不安が大きく、公共交通機関の利便性向上が求められている。

図 3-3-2-1-(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

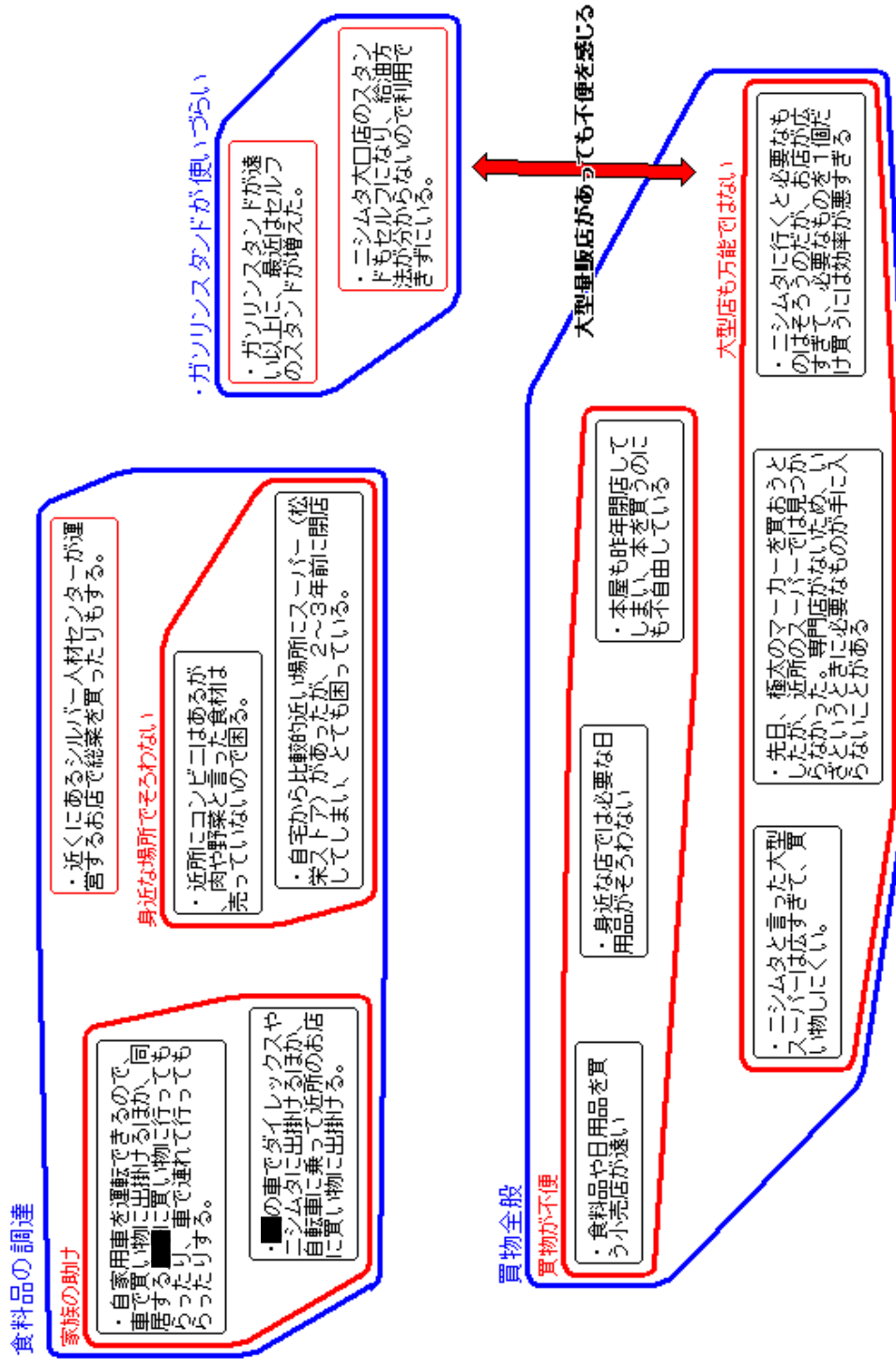


図 3-3-2-1-(3) 外出と外出の手段

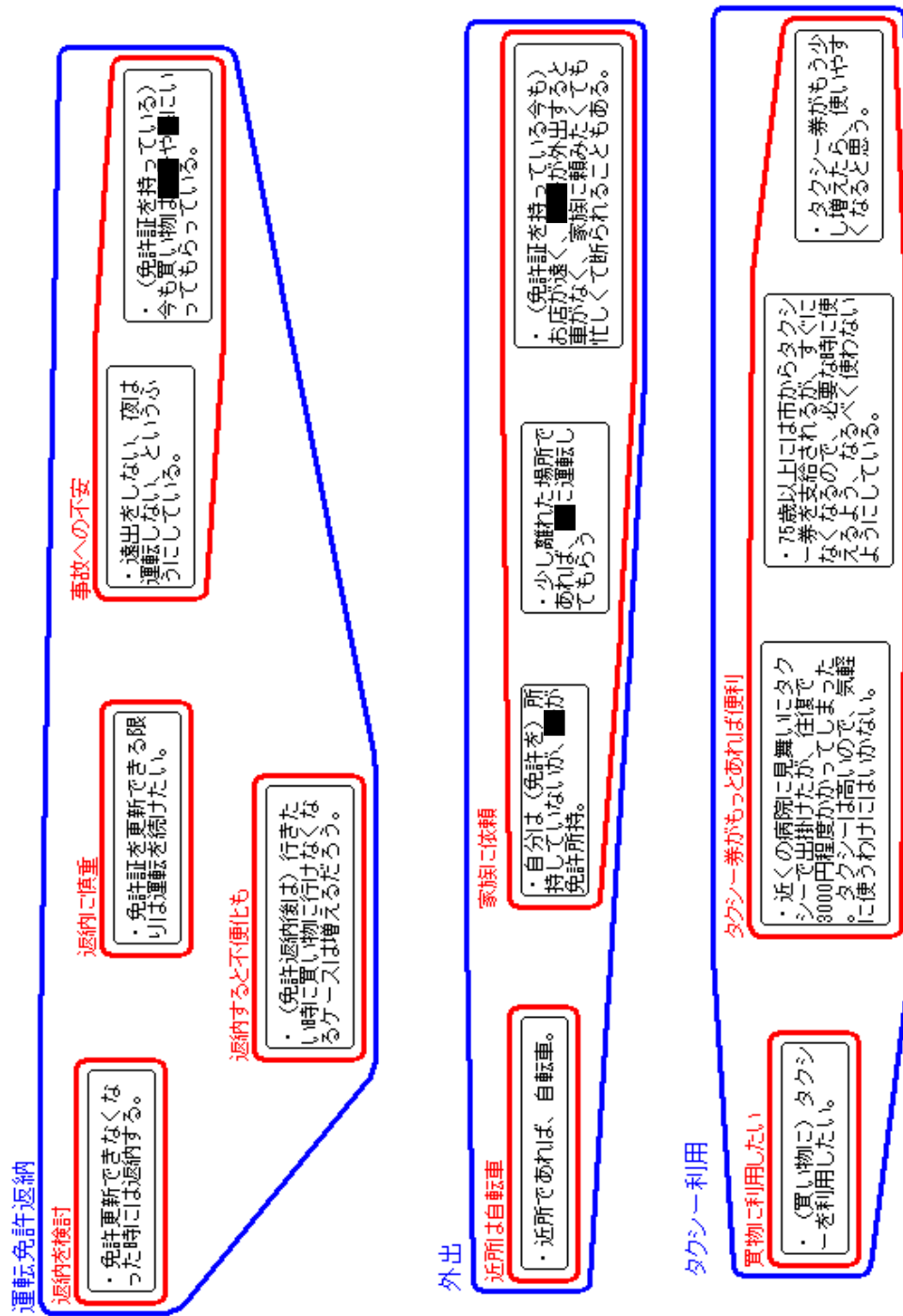


図 3-3-2-1-(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

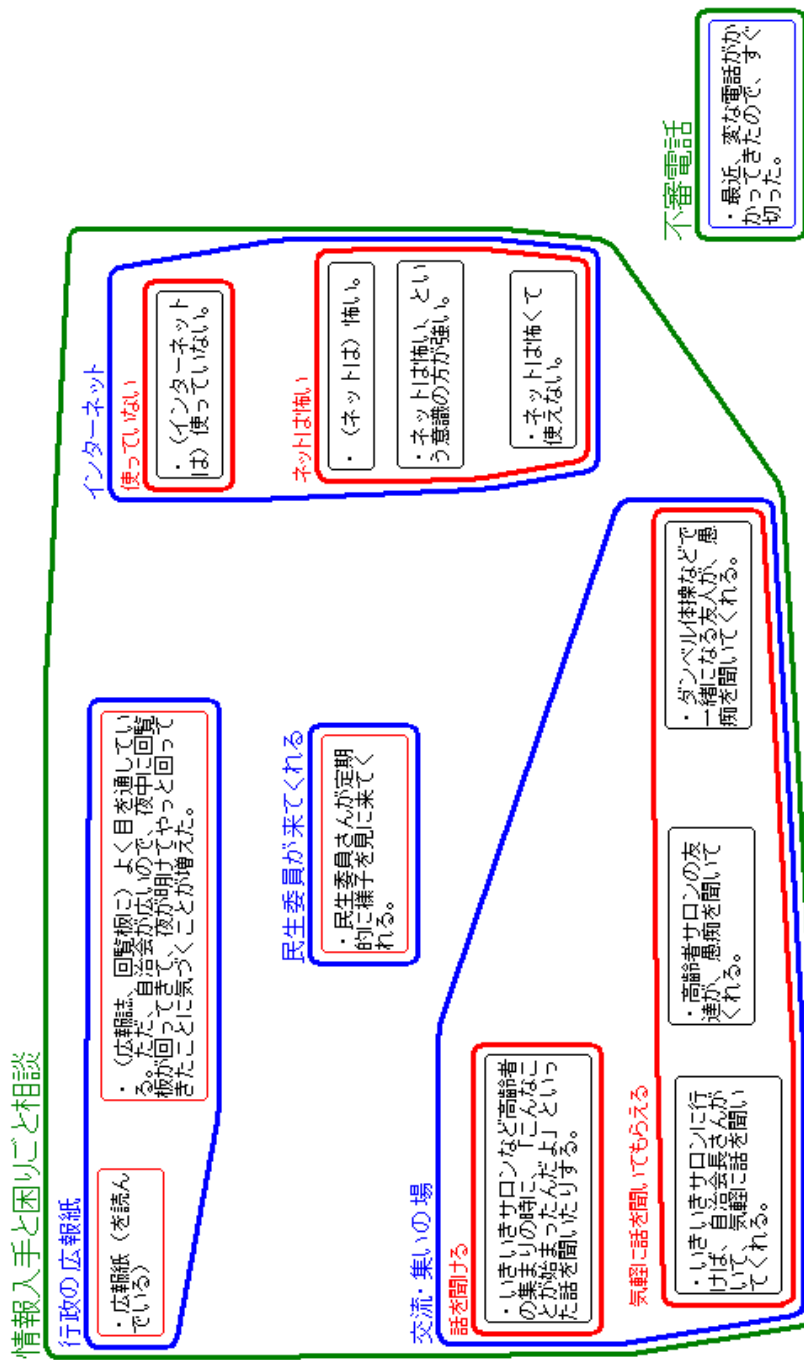
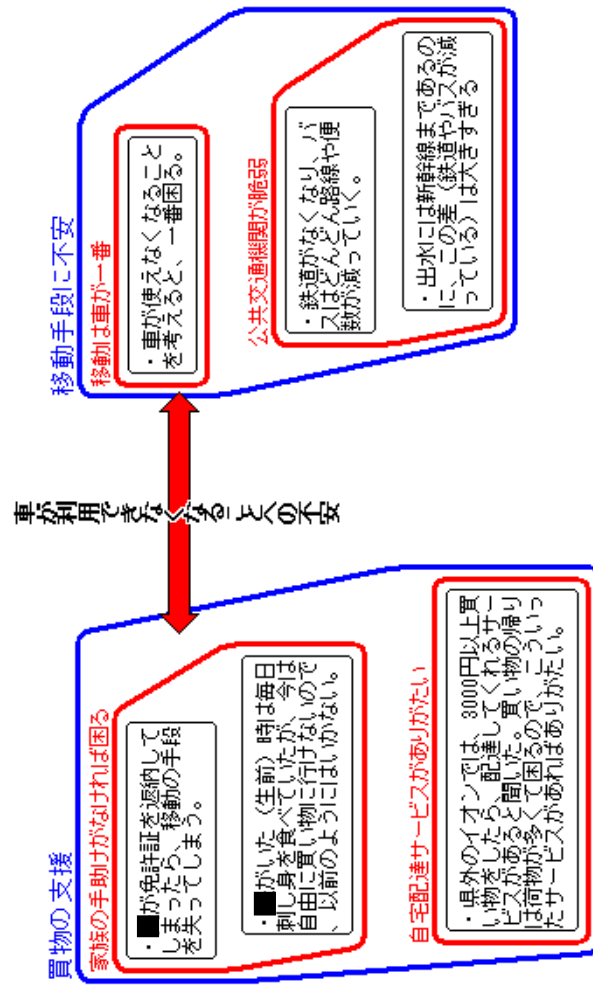


図 3-3-2-1-(5) 暮らしの将来



3-3-2-2 宮人自治会
 (1) 個人属性

図.表 3-3-2-2-(1) 個人属性

	市町	自治会名	年齢	性別	就労状況	主な収入	住居形態	世帯人数
1	伊佐市	宮人	[Redacted]					
2								
3								

就労と収入の状況

就労

- ・ [Redacted] を務める傍ら、2年前からは [Redacted] の委員を務める

住居と世帯の状況

- ・ 隣接する住宅に [Redacted] が住む。
- ・ [Redacted] とは死別し、現在は1人暮らし。
- ・ 車で5分程度の場所に [Redacted] がある。
- ・ [Redacted] と2人暮らし。

(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

生活全般で移動が大きな負担となっている。買物は市中心部まで車で買い出しに行くか、スーパーが運営する移動販売を利用する。近くに小売店も少なく、日用品の調達が難しい。

コミュニティバスの運行頻度が少ないため移動に苦勞する。現在は、自家用車を利用する人も多いが、運転免許の返納後の移動に不安を感じている。

医療面では、かかりつけ医が遠く、受診が難しい。休日診療が限られ、急な体調不良時の対応に不安を抱える人もいる。

(3) 外出と外出の手段

運転免許の返納後の移動手段の確保が課題であり、高齢者の事故増加を受けて返納を考える人もいるが、移動手段がなくなることへの不安が大きい。運転免許の返納後は家族や知人の手助けに頼ると考えている人が多い。

タクシーの利用を考える人もいるが、費用が高く、タクシー料金補助の拡充を求める声がある。

また、知人の車への同乗も選択肢だが、「頼みにくい」と感じる人もおり、実際の利用は限定的とみられる。

(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

市報や新聞を利用する人が一定数いる。

相談の場として、地域の民生委員や包括支援センターがある。

困り事に関して、家族や知人に相談する人もいるが、遠方から引っ越してくる人の中には、地域になじめず孤立気味の人もいる。

(5) 暮らしの将来

移動販売の巡回や行政サービスの出張窓口など、「支援・サービスを身近な場所まで届けてほしい」との要望がある。

移動に関しては、乗合タクシーの利用に期待する人もいるが、制度が周知されておらず、実際に利用できるか不安を感じている。

また、地域のお助け隊などボランティア支援の存在に期待が寄せられている。

図 3-3-2-2-(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

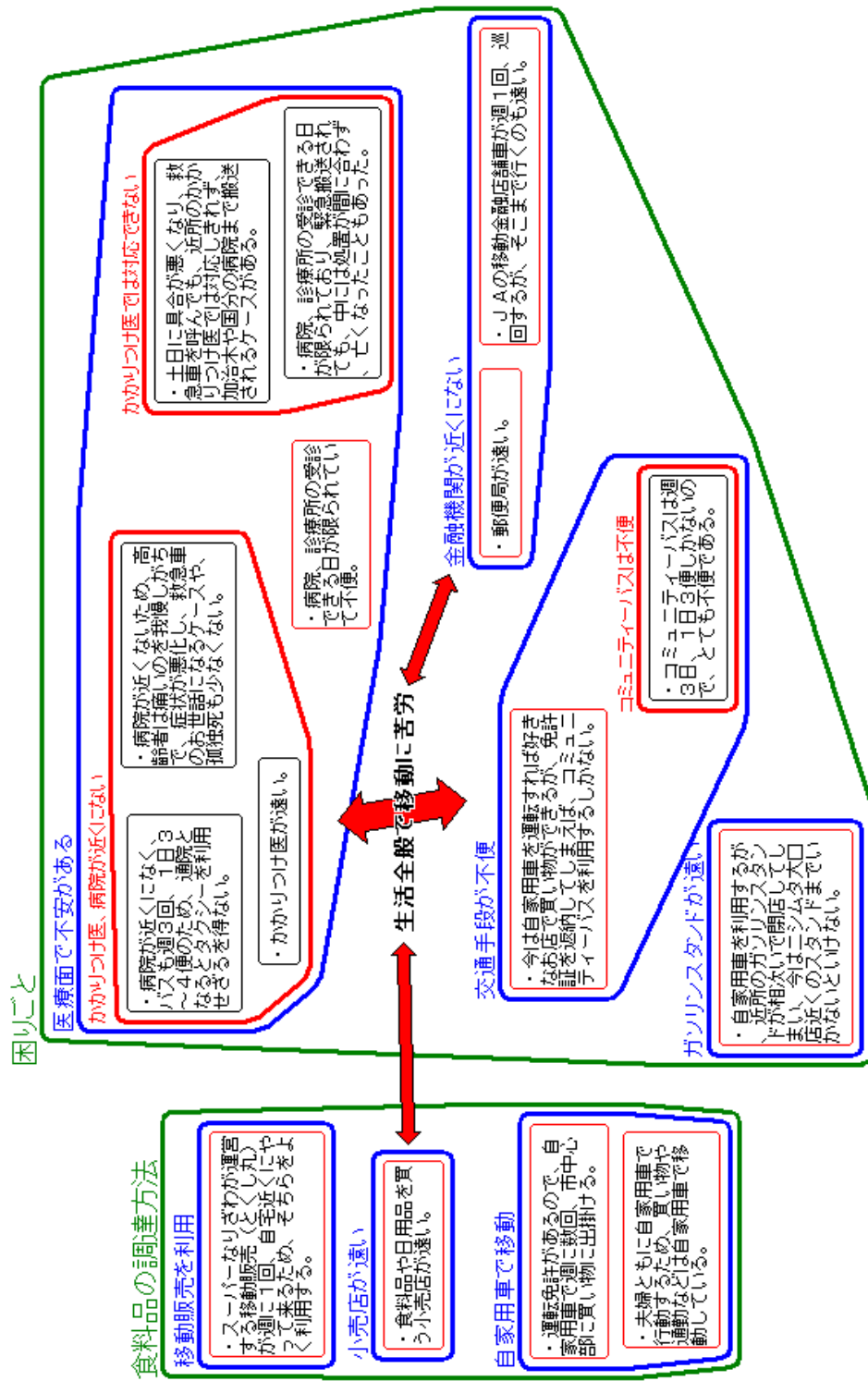


図 3-3-2-2-(3) 外出と外出の手段

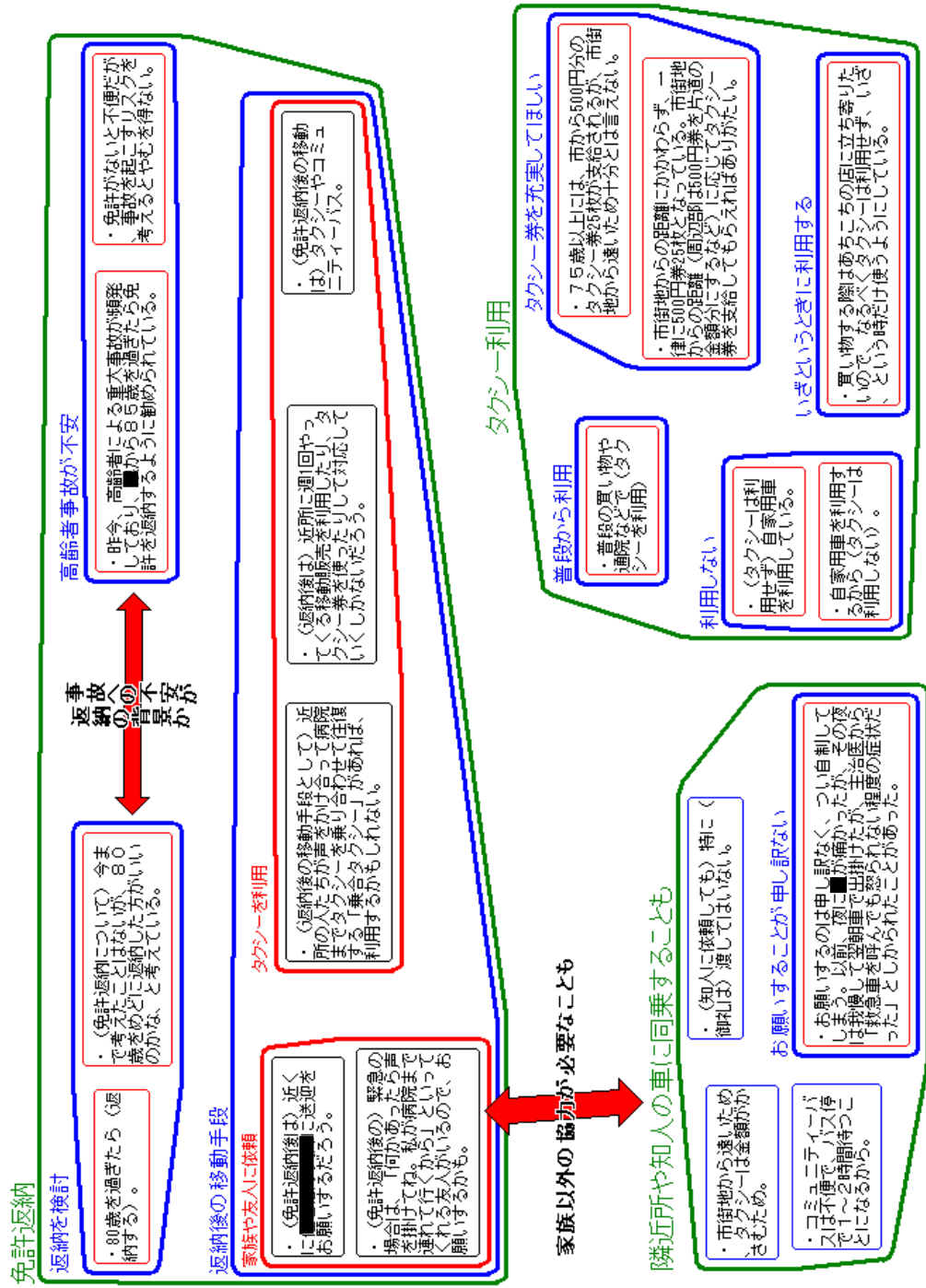


図 3-3-2-2-(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

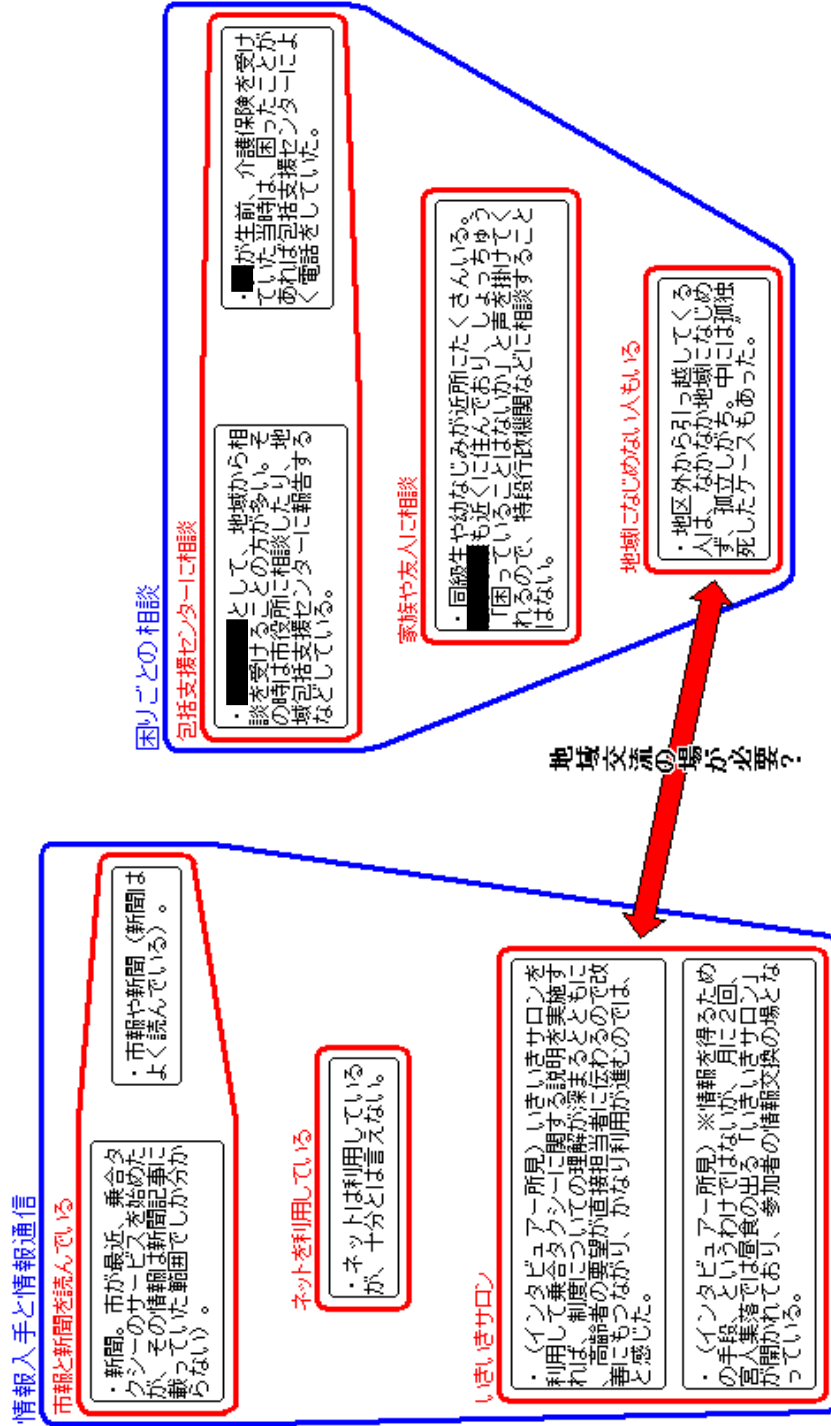
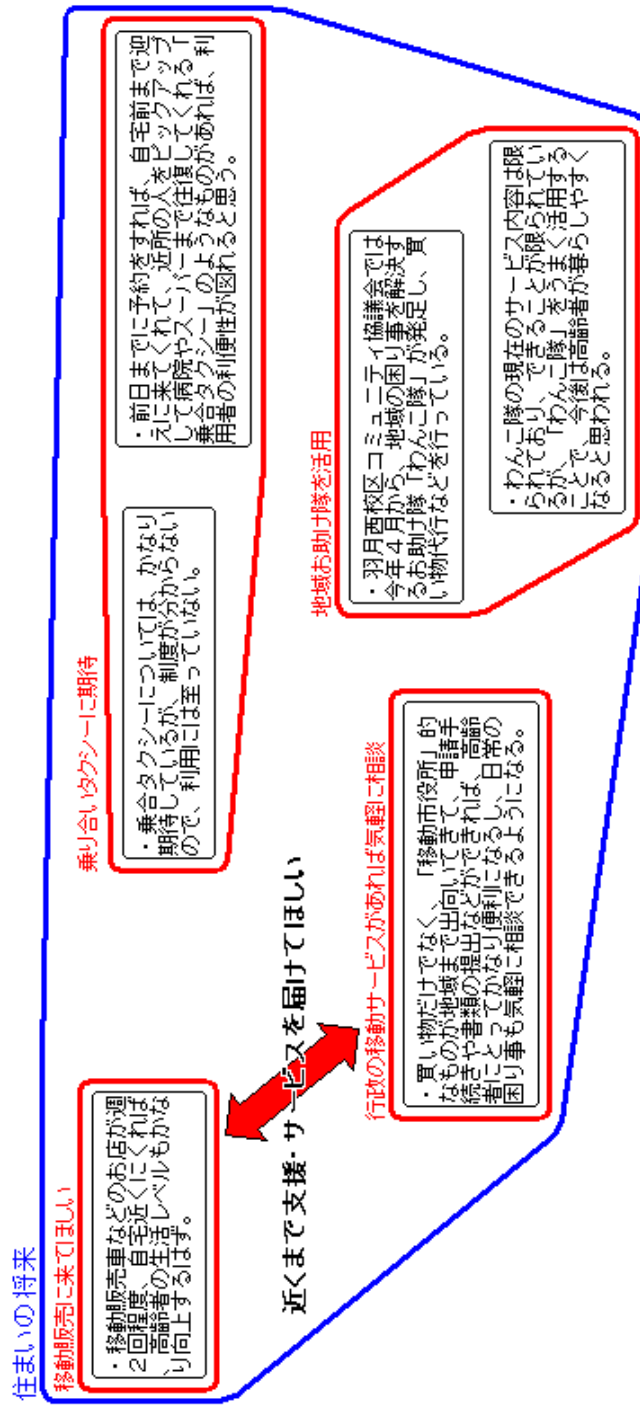


図 3-3-2-2-(5) 暮らしの将来



(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

障害や高齢のため買物の移動が困難で、タクシーを使わざるを得ない状況もあるが、行政からのタクシー補助は十分とはいえず、負担が大きい。

公共交通機関であるバスを利用したいが、高齢者にはバス停までの道路の交通量が多くて危険を感じていたり、乗り継ぎの必要があったりしてバスの利用が難しく、移動の選択肢が少ない。

かかりつけ医が遠く、定期的な受診が負担となっている。

(3) 外出と外出の手段

運転免許の返納を検討しているが、返納後の移動手段に不安を感じる人が多い。介護施設への入所を考える人もいる。家族も忙しく、外出のための送迎を頼みづらい状況もある。移動や買物の手段としてタクシーの需要は高いが、料金補助が不十分で利用しづらい。

地域の交流の輪に入れず、地域活動に参加しづらいと感じている人もいる。

(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

新聞や市報を読んでいる人が多いが、インターネットの利用は少ない。

スマートフォンの使用に抵抗がある人が多く、家族からも反対されるケースがある。一方で、スマートフォンを使ってみたいと考えている人もおり、使い方を教わる機会があれば助かると考えている人もいる。

(5) 暮らしの将来

交通手段を確保し、買物などのため自由に移動したいと希望する人が多い。バス停まで行って待つ必要があり、高齢者にはつらいと感じる人がいる。オンデマンドタクシーの利用も考えられるが、予約の煩雑さなどが障壁となる可能性がある。

防災情報の伝達に不安を感じる住民がおり、災害時の移動手段の確保にも不安を感じている。

図 3-3-3-1-(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

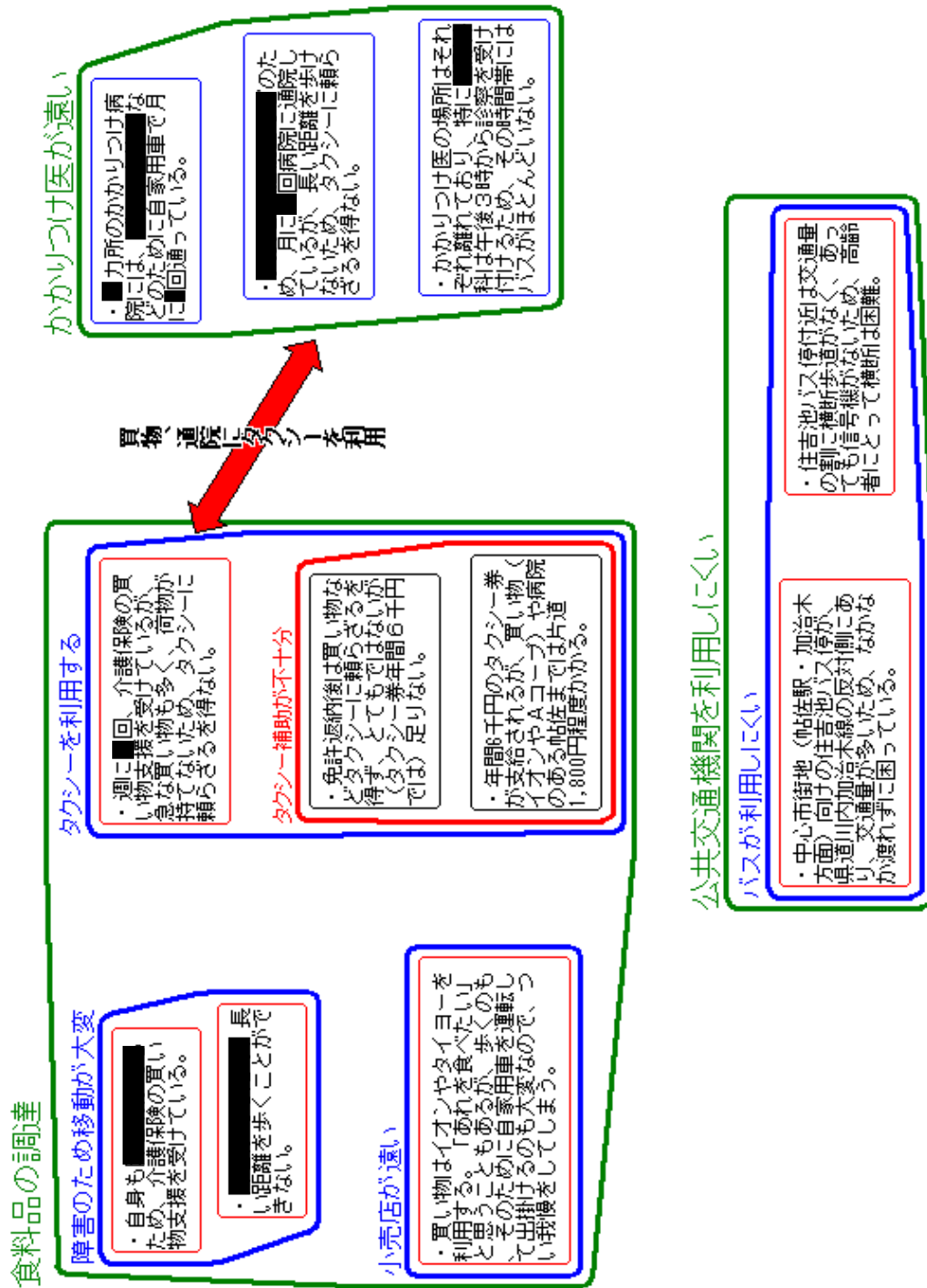


図 3-3-3-1-(3) 外出と外出の手段

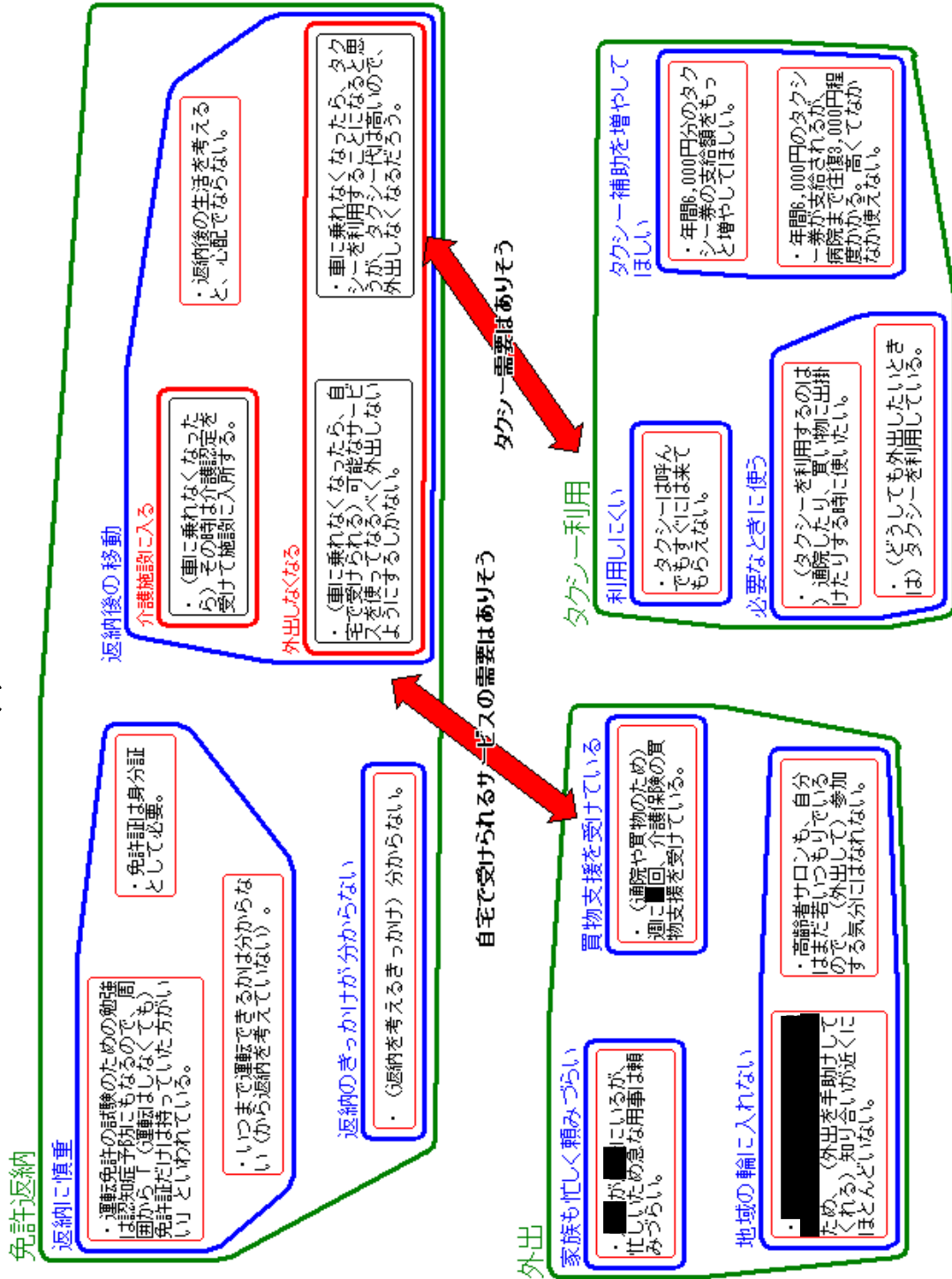


図 3-3-3-1-(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

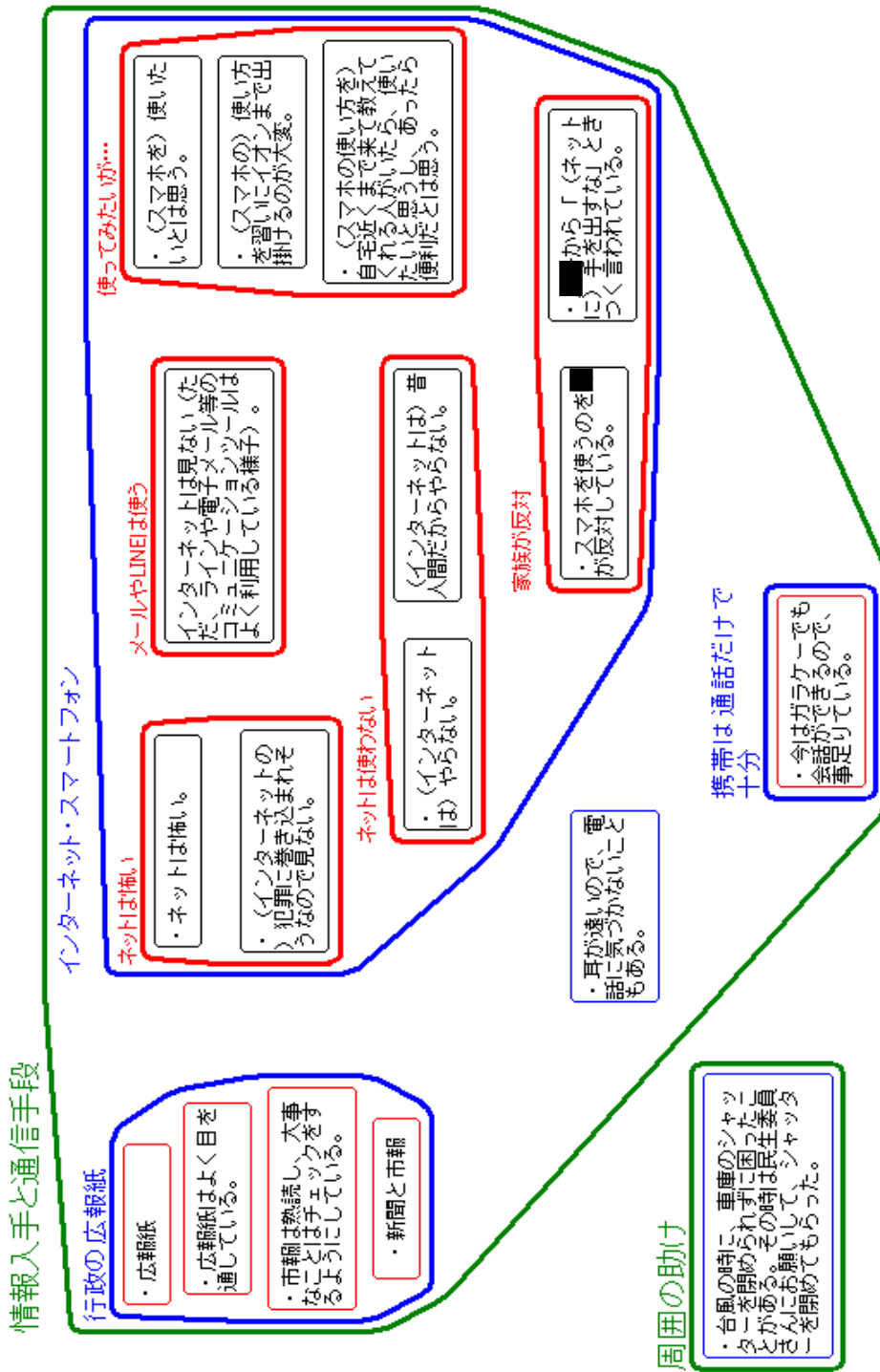
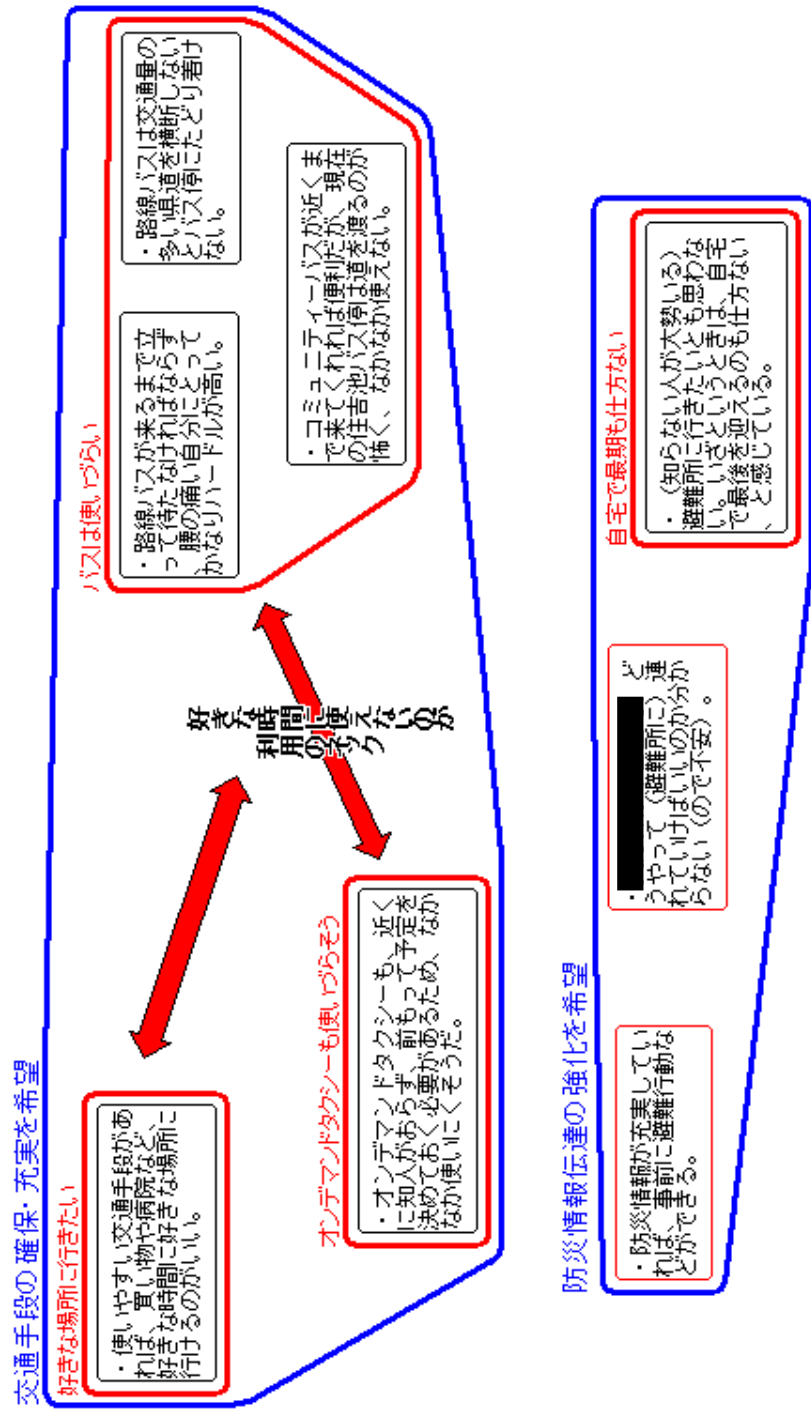


図 3-3-3-1-(5) 暮らしの将来



3-3-3-2 明神自治会
 (1) 個人属性

図.表 3-3-3-2-(1) 個人属性

	市町	自治会名	年齢	性別	就労状況	主な収入	住居形態	世帯人数
1								
2	始良市	明神						
3								

住居と世帯の状況

・敷地内に()が住んでいる。

・()が亡くなるまでは、()と一緒に住んでいた。

就労と収入の状況

収入

・()は年金収入のほか月に()回()の仕事をしている。

経済的に不安がある

将来がより不安

・今はいりけれども先々の不安がある。

・今は貯金も使いながら生活。貯金が減っていく中で、年金と貯金でやっていけるのか。

・経済的にやや不安。もう少し収入があるといいという気持ちはある。

・経済的にやや不安。

・子どもたちに迷惑をかけないように、経済的な面の不安がある。

経済的な不安はない

・年金で生活ができているため、経済的に不安はない。

(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

日用品や食料品の買い出しには遠くまで徒歩や車で行く必要がある。家族による買物支援が頼りという高齢者もいる。

自治会内にコンビニはあるが、必要な物を十分にそろえられる店舗がなく、日常の買物に不便を感じている。

公共交通機関の利便性も低く、買物や通院の際に移動が大きな負担となっている。

緊急時に対応できる医療機関も少ない。

交流・集いの場を求める声もある。

(3) 外出と外出の手段

高齢者事故の増加を背景に運転免許の返納を検討する人がいる一方で、移動手段の確保が難しいため、慎重にならざるを得ない人もいる。返納後は家族や知人による送迎が必要になるかもしれないが、頼みづらさや相手の負担を考えると難しい面もある。

タクシーの利用も一つの方法だが、運賃負担が重く、料金補助の拡充を求める声が多い。特に通院時の移動手段としてタクシーを利用したいが、利用するための介添えが必要という課題もある。

(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

行政の広報紙やテレビ・ラジオ・新聞を頼りにしている人がいる。

インターネットを活用できる人、したいと思う人は多くはない。

自治会の集まりなどで情報を得る機会があるが、個人的なつながりで自治役員経験者や近隣住民に頼ることもある。

犯罪に対する不安もあり、高齢者が狙われることへの警戒が強い。

(5) 暮らしの将来

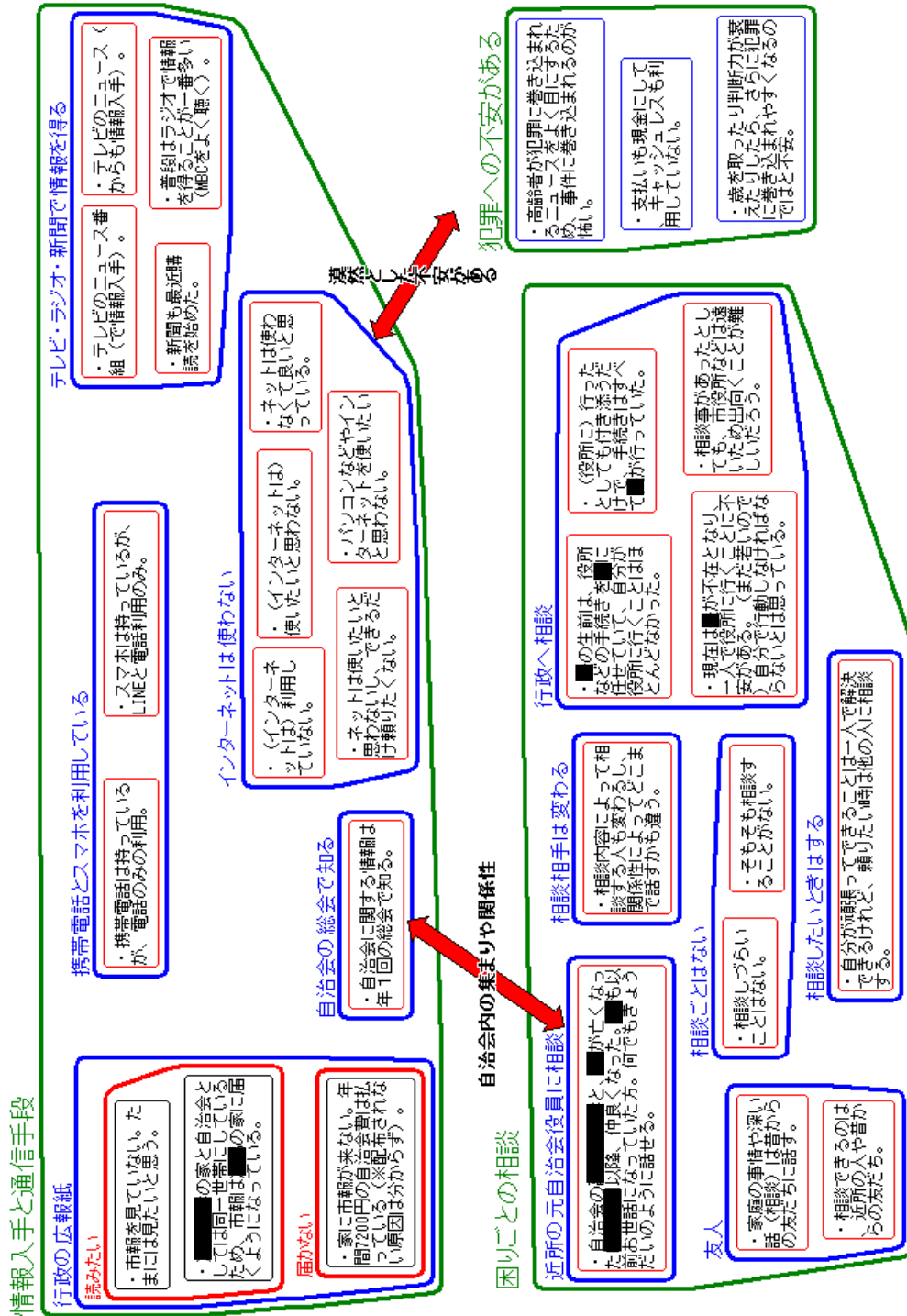
タクシーの利用が助かるが、乗合タクシーの場合は「ほかの人への気兼ね」があって、頻繁には使えないと考える人がいる。

バスの利用については、運行ルートや乗り方の周知が足りないと感じている人が多い。

外出しての買物の機会が交流の場となることがあり、楽しみと感じている住民がいる。買物支援としては、移動販売や注文販売が歓迎されており、特に高齢者にとっては重要な支援策となる可能性がある。

このほか、自治会内の空き家への懸念も示されている。

図 3-3-3-2-(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談



(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

町内での買物は可能だが品揃えに限りがあり、遠方の量販店まで出かけるなど多くの住民が町外へ出ている。移動販売は来ているものの、利用者は限定的である。

現在は車で移動できるが、将来の移動手段に不安を感じている住民がいる。

医療機関への受診日は限られ、不便に感じる住民がいる。専門的な診療には遠方の病院まで行く必要があることに加え、緊急時には町外の病院に行くことになるが、処置のできる医師が常駐していないことに不安を感じている。

(3) 外出と外出の手段

運転免許の返納については、運転を続けたいが健康次第で返納を考える人や返納後の移動手段が限られることで外出が減りがちになることを懸念している人がいる。

運転免許の返納後は家族の送迎を頼るケースが多い。タクシーや送迎サービスを利用するケースもありそうだが、乗合タクシーは他人との相乗りに抵抗がある人もおり、利用しやすい仕組みの検討が必要となる。

(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

広報紙や防災無線を情報収集の手段と利用している人がいる一方、インターネットの利用は限定的で、「ネットは怖い」と感じる人がいる。

交流サロンに包括支援センターの職員がきてくれており、相談をしている。

自治会役員にも相談しやすいが、自分ができることは自分でやりたいと考える人もいる。

(5) 暮らしの将来

近くのかかりつけ医がいるという人がいる一方で、緊急時の受け入れ態勢に不安を覚えている人もいるなど地域医療の充実を求める声がある。

図 3-3-4-1-(2) 買物や移動など日常生活での困りごと

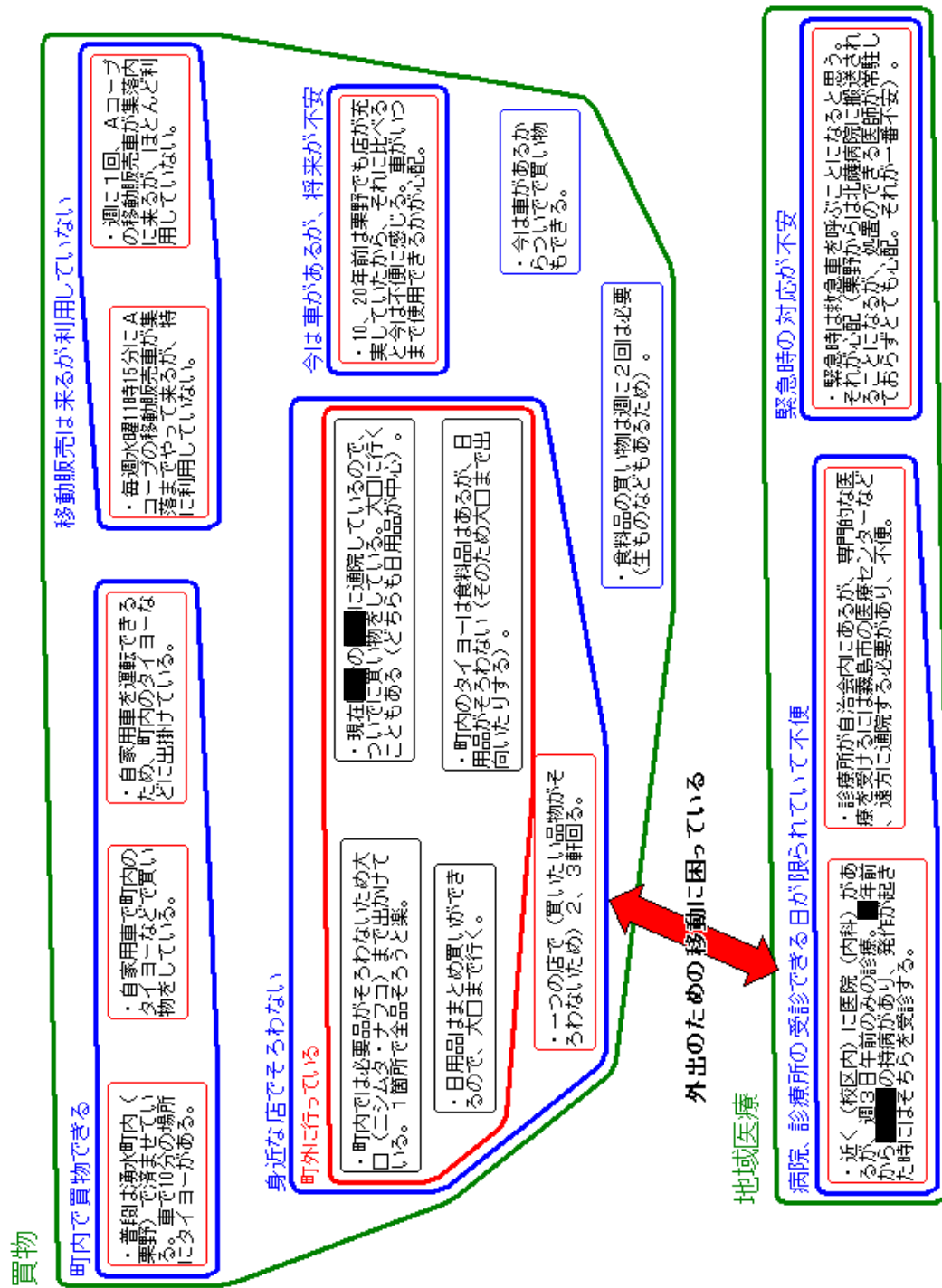


図 3-3-4-1-(3) 外出と外出の手段

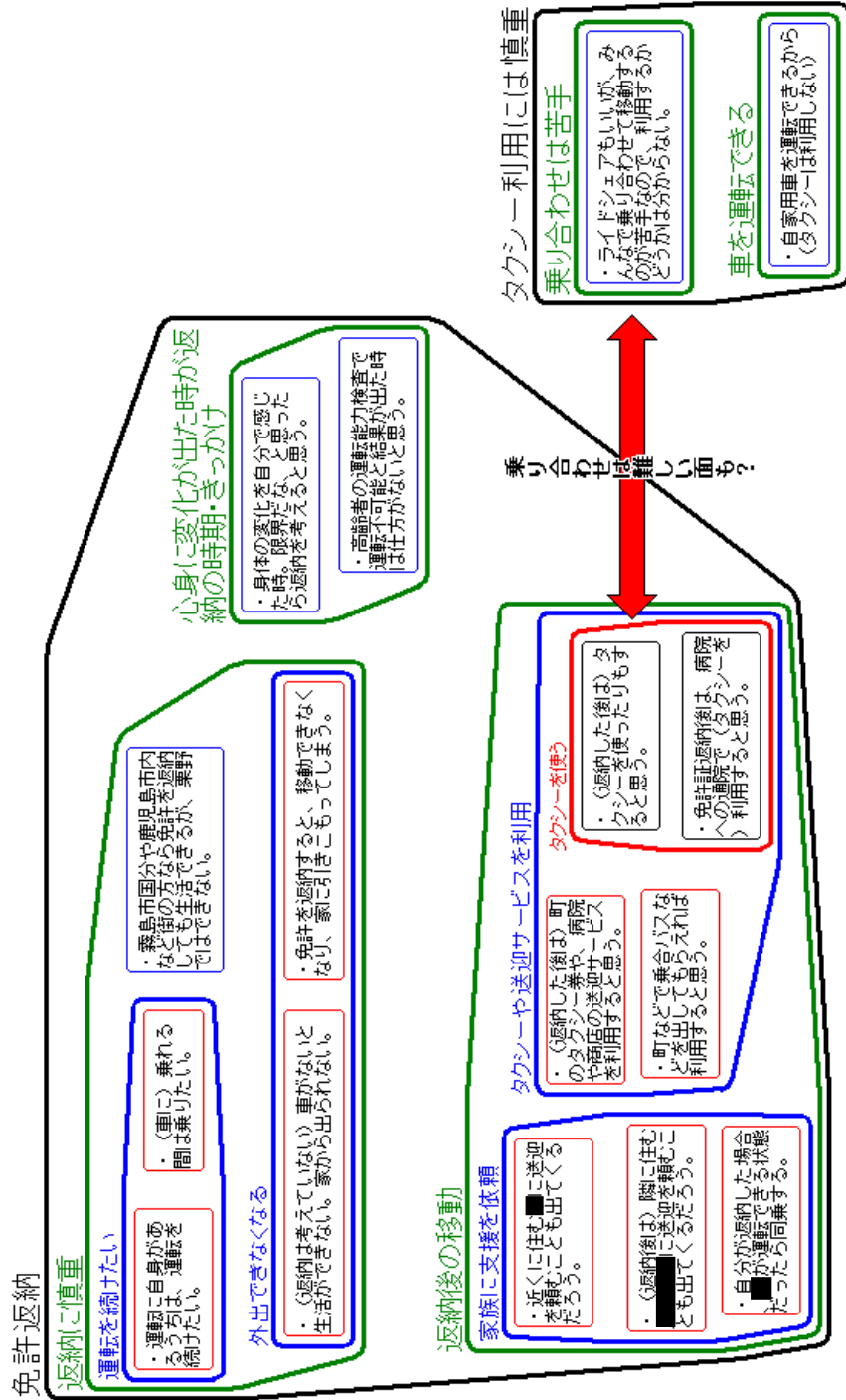


図 3-3-4-1-(4) 情報入手と通信手段、困りごと相談

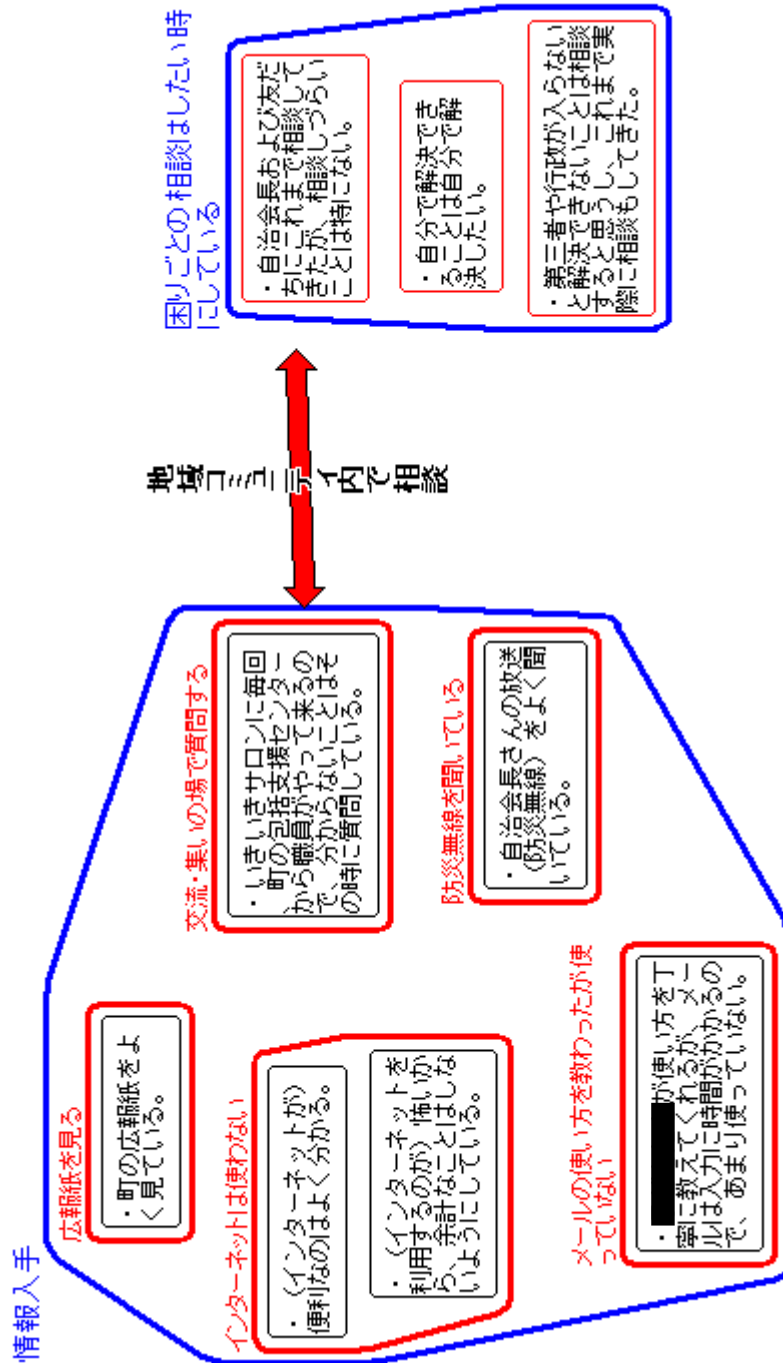
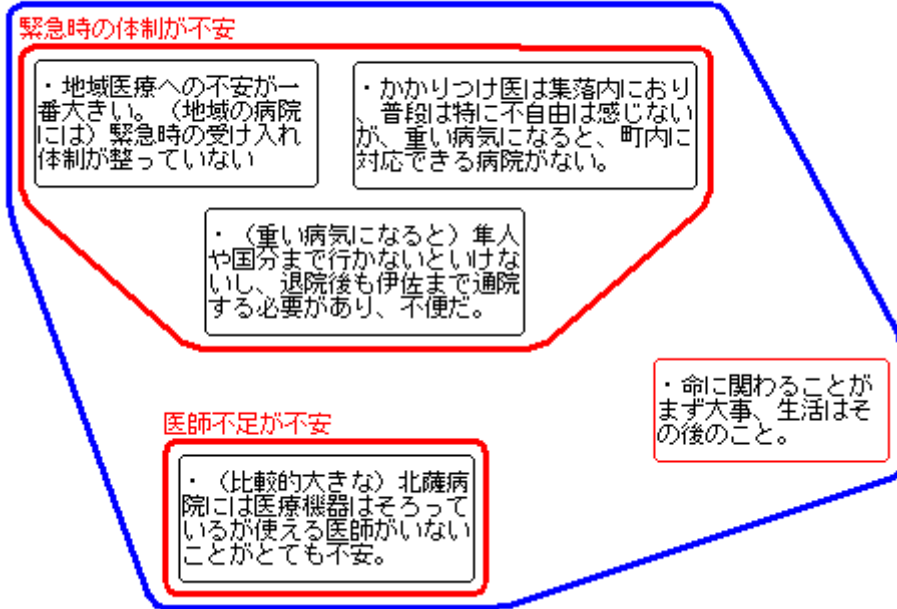


図 3-3-4-1-(5) 暮らしの将来

地域医療の充実



3-3-4-2 麓自治会

(1) 個人属性

図.表 3-3-4-2-(1) 個人属性

	市町	自治会名	年齢	性別	就労状況	主な収入	住居形態	世帯人数
1	湧水町	麓						

年金をベースに生活

・今は年金をベースに貯金を使いながら生活している。

経済的不安がある

・今はいいが、先が不安。病気で経済的な負担がかかることなどが不安。

(2) 日常生活の支援

以前は近所の人々が助け合っていたが、現在は頼れる人が少なくなり、手伝いを頼んだりすることが難しくなっている。

身体的な制約があるため、単独での外出が困難な人がおり、家族を含めた支援がないと買物や通院が難しい。

介護ヘルパーによる見守りサービスなどがあると助かるという声がある。

図 3-3-4-2-(2) 日常生活の支援

